

1. 評価結果概要表

平成19年 10月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	2072400563		
法人名	社会福祉法人サン・ビジョン		
事業所名	グループホームグレイスフル辰野		
所在地	長野県辰野町宮所807 (電話) 0266-41-5651		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成19年10月27日	評価確定日	平成19年12月11日

【情報提供票より】(19年 8月 30日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 10月 17日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤6人	非常勤2人 常勤換算6.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000(30日) 円	その他の経費(月額)	17,340 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (8月 30日 現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	3名	要介護2	5名
要介護3	1名	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 82.2 歳	最低 68 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	町営辰野病院、村上歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

主道路(153号線)よりわずかに入った山間に続く道筋にホームがあります。背景の山々にレンガ色の屋根がとけ込み明るく、人を受け入れる暖か味があります。ホームは社会福祉法人サン・ビジョンを母体に持ち、開設後7年目経過の中、管理者は常に認知症ケアに高い理念を持ちホーム独自の研修体制を確立して積極的に研修に参加し、研鑽を積まれている。なお併設のデイサービスセンターとの行事、地域の方々との交流促進、ホーム機能を地域へ還元等の連携が図られている。日々入居者への対応には尊厳を持って支援にあたり、また個別ケアにより入居者の思いを把握し入居者中心のケアサービスに努められている。入居者の方々は皆明るく、穏やかに、安心された生活を送られている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	同母体内の人員体制による異動と結婚退職、他業種への転職、体調不良による退職による交替と伺った。職員交替による不安、不都合が生じないよう、入居者、ご家族には最大の配慮がされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価及び外部評価の意義や目的を職員全員で理解をし、職員全員で評価に取り組まれている。なお外部評価の結果を受けて、具体的な改善に努められている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には関係者が出席して開催されている。自己紹介・会議の目的・各年度実行計画(取り組み)、ホーム独自の研究活動(「私の子育て時代～子供との交流で得た優しさや笑顔～」活動の目的は地域交流を増やす、認知症の進行防止に繋がる活動として取り組みを開始。入居者の子育て時代の経験を聞くことにより、生き活きた生活を取り戻すことに繋げる等)の説明等、入居者及び参加者に共感が得られている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書(事業所内、各市町村、県、第三者委員等)に苦情・相談窓口が明示され入居時に説明がされている。なおご家族面会時の情報交換や運営推進委員会において意見が表出できるよう配慮が図られている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の回覧により地域の行事を確認し、ご家族やボランティア参加の季節行事(節分祭・ひな祭り法話・お花見・いちご狩り・蛍狩り・焼き芋大会等)や老人クラブの来訪・中学生の職場体験・辰野高校より紙芝居や読み聞かせなどにより交流が図られている。また日常的には買い物や散歩等により地域の方々や挨拶等の交流が図られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を掲げ運営し、理念に基づいてホームの事業計画を立てられている。	○	法人全体の理念を基盤にしつつ、介護保険上の居宅サービスの中でも独自の社会的役割を担う認知症対応型共同生活介護事業者としての自覚と意識を持ち、ホームとしての個別の理念、方針、目標を明確にされることを望みます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送り時に理念を唱和すると共に、理念に基づき事業計画を立てホームの目標を明確にされている。なお目標に沿った運営に向けて職員全体で話し合い、ケアについて意見の統一をはかられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の回覧板により行事確認をし、入居者が参加できそうな行事に出掛けている。また地域の回覧板にホームより施設新聞をのせ回覧して頂き、ホーム理解への取り組みに努められている。なお子供会への参加、老人クラブの来訪、中学生の職場体験(2~3人)、高校生による紙芝居や読み聞かせ等地域との交流が図られている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に職員全員で行い、具体的なサービスの改善に取り組まれている。外部評価の結果をカンファレンスにおいて全職員に周知をはかり、気づきをもとにケアサービスの質の確保に努められている。		

グループホームグレイスフル辰野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回の頻度で開催され、ホームの現況や取り組み等の報告をし、意見や指導を頂くと共にその経過を報告される等、課題解決に向け協議し、共に取組まれホームサービスの質の向上に繋がられている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に保健福祉課へ訪問しこまめに連絡を取り合われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月次請求書やおこずかい使用明細送付時に入居者の現況を記入した手紙を添付し報告が行われている。なお健康状態に変化のあった時には電話連絡もされている。またご家族訪問時に金銭出納帳にサインを頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族訪問時には、必ず職員より声掛けをし情報交換が行われている。なおご家族の要望等はカンファレンス開催時に積極的に聞きし話し合われ反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は、やむ終えない事情のある折のみの最小限に抑える取り組みに努められている。新任職員が入る場合には入居者に説明されると共に、ご家族への不安等を解消するため、ホーム便りに写真入で新任職員の紹介をし、ご家族がホーム訪問時には必ず新任職員より挨拶をされる等の配慮がされている。		

グループホームグレイスフル辰野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スパースターシートを用いて各職員の能力を把握し、各職員が(段階的)にチャレンジする項目を明確にされている。法人内の交換研修や他の事業所及び他部門の研修も行われている。法人外の研修にも積極的に参加されている。最近では全国認知症グループホーム大会に参加して、職員が(地域交流を増やす、認知症の進行に繋がる活動としての取り組みについて)発表されたことを伺った。	○	各職員が苦手としている事柄を再確認し、サービスの質の向上に向け勉強会の内容を検討していける旨を伺った。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体系列のホームとの交流は持たれているが、地域の同業者との交流がされていない。	○	他法人のグループホームとの交流や連携をとることにより更なるサービスの質の向上に努められることを望みます。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム利用開始前にホーム見学をして頂く方や併設のデイサービスを利用後に入居される利用者が多いことを伺った。本人の納得を大切に利用の支援がされている。なお入居に備えご家族と相談しながら個別の利用開始の調整が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常のケアの中より入居者の言葉や表情などから真意をそれとなく確認し、思いを知る努力がされている。その思いに共感しケアサービスに繋げるために職員全員で情報の共有を図られている。		

グループホームグレイスフル辰野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活暦を周知されると共に日常のケアの中より得られた思いや意向の把握に努められ、入居者よりの意思疎通が困難な場合はご家族より情報を得られている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の身体状況や認知度及びライフスタイルを把握すると共に、入居者、ご家族より思いや意見を伺い反映されている。入居者一人ひとりのニーズに合わせた介護計画が作成されている。なお作成に当たっては、アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスが行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の介護計画の見直しが行われている。また入居者に著しい変化が見られた時にはご家族、入居者の要望を取り入れつつ現状に即した介護計画の見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じ通院介助や個別外出に職員が付き添われる支援が行われている。また入居者の居室にご家族が宿泊できる用意がされている。(毎月の訪問時には宿泊されていることを伺った)		

グループホームグレイスフル辰野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の主治医と情報を共有し、意見を聞きながら対応されている。なお通院介助については入所契約時の説明において、できる限りご家族に対応の旨が明記されていますが、必要時には対応されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日頃より入居者の健康状態(定期受信の内容の把握等)には心配りをし、入居者、ご家族が安心してサービスが受けられるよう配慮されている。入居者の状態が、治療、療法、看護等を常時必要とする状態になると予測される場合は自主的に他の事業所を利用されることが多い。ホームとしても常に相談体制がある事を伺った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	セリフ集を用いて、入居者へのアプローチに成功した例、失敗した事例を分析し、入居者を尊重した言葉掛けができるよう定期的に振り返る取り組みがされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	掃除、洗濯、食事づくり、買い物、ぬり絵、雑巾縫い、有線を聞く、歌を歌いながら歩く、テレビ体操等、行う前に必ず声を掛け確認後に行っている。体調やその時の気分に合わせ参加できるよう支援がされている。		

グループホームグレイスフル辰野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物に同行し食品を選んでいただいている。なお生活暦より好みの把握もされて食生活に活かされている。食事には職員も同席し、会話を楽しみながら食事が出るよう雰囲気づくりに努められている。食後の片付けも定着し積極的に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の状態確認(血圧・体温等)を行い、スムーズで安全な入浴ができるよう支援されている。午後2時～4時の間に入浴されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活暦や日常の携りの中より入居者のつづやきを表出し、活かした取り組みが行われている。(食事づくり、買い物、個別にお寿司屋さんへの支援やドライブ等)入居者が主体の張りのある生活に繋がるよう支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、ドライブ、外食、季節ごとの行事参加、午後併設のデイサービスのレクリエーション参加等、希望に副った外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを認識しており、訪問当日に鍵は掛けられていなかった。日常的に日中については、施錠はされていない。徘徊探知システム装置が設置されていると共に、入居者のが外出時にはスムーズに付き添える取り組みがされている。		

グループホームグレイスフル辰野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の定期的な防災訓練が行われている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と、情報を共有し、食事量や栄養バランスに注意が必要な入居者について把握し指導を頂いている。	○	一日全体を通じた食事量、バランス、飲水量の確認が望まれます。時には献立表によるカロリー計算をして頂く事が望まれます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾り、入居者お気に入りの家族写真や小物を置き工夫されている。不穩に陥りやすい気持ちの安定に繋がっている。入居者が使いやすい位置にソファを置かれる等の配慮がされている。昔馴染みの炬燵も用意され生活感や季節感を取り入れた対応がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得て入居者が使い慣れた家具や生活用品また家族写真や花々を飾り一人ひとり思い思いの居心地の良い安心して過ごせる居室づくりがされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。